

令和2年度・土佐清水市史編集委員会を開催

—各編集委員から近況と課題が出され熱心に討議する—

先月30日14時より土佐清水市立中央公民館にて本年度第2回目の市史編集委員会が監修宅間一之氏と編集委員10名の出席を得て開催された。

会議では、10名の各編集委員の近況報告とそれぞれの課題が出された。近況報告では、担当範囲の執筆構想が熱く語られ本年中に一次原稿をできるだけ進め、とりあえず紙ベースでよいので提出することを確認した。

また、課題として同和教育史担当の浜岡篤編集委員から、部落史を執筆していくうえで「賤称語」などについて、文書表現上どうしても避けては通れない点が出された。また、地域教材を掲載する際にも被差別地区が特定され、そのことが差別につながる面も危惧された。差別は過去のことではなく現在進行中のことである。インターネットなどにより地域が特定され、差別拡散している現状もある。編集委員会としては差別を許さないという確たる方針を持ち、執筆を進め、編集委員会内で方針を確認し、市じんけん課とも連携して、地域に方針を説明して理解を求めるなど組織的に対応していく予定である。

現在の一次原稿の執筆状況は、263/720頁で全体の約37%となっている。本年度末までには360/720頁、全体の50%を目標に取り組んでいく予定である。



各種調査本格的に始動

市内市野々地区で市野々城跡の縄張り図作成のための踏査

高知新聞朝刊 2020年(令和2年)11月4日(水曜日) 地域2 ☆☆ (20)

県内支社局
土佐支局 ☎0888-8520158
北局 ☎0887-762432
香総 ☎0887-660600
芸支局 ☎0887-362045
中支局 ☎0887-384800
戸支局 ☎0887-384340

震洋艇の格納壕を調査する出原恵三さん
〓右〓から上佐清水市越地区



旧海軍の特攻兵器

【清水】土佐清水市越地区に残る旧海軍の特攻兵器「震洋艇」の格納壕でこのほど、平和資料館「草の家」(高知市)の出原恵三副館長(64)が奥行きなどを測量した。機器を使った精密な調査は初めてとみられる。出原さんは「同じ場所に10基もそろって残っているのは全国でも清水ぐらい。非常に貴重な場所」と話している。(山崎彩加)

「震洋艇」格納壕 精密測量

土佐清水市で調査

震洋艇は20キの爆薬を戦を迎えた。搭載して敵艦隊に体当たりする小型ボート。太平洋戦争末期、米軍の本土上陸に備えて各地に配備された。土佐清水市にも1945年6月、第13震洋特別攻撃隊が置かれた。越地区の海に面した山肌には掘られた15基の格納壕に24隻が配備されたが、出撃することなく終

同市は約40年ぶりとなる市史発刊の準備を進めており、編集委員を務める出原さんが4月から調査している。

10月29、30日の調査を度々をめぐり、発刊予定の市史では、測量したデータとともに、地形など格納壕周辺の様子も紹介することになっている。

出原さんによると格納壕は埋まったり、開発により壊されたりして、まともに残っている所は全国的にも少ない。県内でも高知市、土佐市、幡多郡大月町で確認された格納壕は、いずれも2〜4基という。

今後も、残る格納壕の調査を継続。2022年度末をめどに発刊予定の市史では、測量したデータとともに、地形など格納壕周辺の様子も紹介することになっている。

10基残存 全国的に貴重

田村 吉本

先月31日、市内市野々地区に所在する中世山城・市野々城跡の縄張り図を作成するための踏査が行われました。踏査は、高知県立埋蔵文化財センター所長である松田直則編集委員を中心に行われ、ボランティアとして武藤清編集委員、事務局から市史編さん室・田村が参加しました。堅堀や小口、切り岸などがあり、当初想定していたより規模が大きな山城であることが分りました。

今月6日午後からは下ノ加江の小方城跡、7日は長野方面の山城、8日は布城跡を踏査する予定です。6日と7日は、地元である元生涯学習課長・橋本清郎氏の協力もいただく予定です。

←「震洋特攻艇格納壕」の測量調査

本年度3回目の測量調査が「考古」「戦争遺跡」の章を担当する草の家副館長である出原恵三編集委員を中心にして先月29日から30日の午前中の1日半にわたり実施しました。調査には、ボランティアとして本市文化財審議委員である武藤清編集委員、事務局市史編さん室田村・由岐・吉本が参加しました。

「少年万次郎を育んだ中浜浦」

足摺岬小学校3・4年生の社会授業

足摺岬小学校・岡村相良校長から依頼があり、足摺岬小学校3・4年生の社会科授業を市史編さん室・田村が実施しました。

複式授業であり、しかも小学生ということもあり、言葉が難しくならないように丁寧に授業を進めました。万次郎の少年時代の中浜浦について近代の資料をもとに子どもたちと一緒に探っていきました。また、万次郎が漂着した鳥島の動画がありましたので、一緒に見て、いかに鳥島が絶海の孤島であるのかを確認しました。授業後に担任の北代可也先生と研究協議を行い、万次郎を教材として深めることができたと思います。

今月4日午後から市教研社会科部会研修会で北代可也先生が続きを研究授業します。土佐清水市教育委員会発行の小学校低学年向け副読本である絵本を活用しています。絵は北代可也先生が描き、文は谷岡暁美先生が書いています。地域教材の活用は、難しいけど価値ある取り組みだと確信しています。



◇季節の変わり目になりました。昼間は暖かいですが、これから朝晩は寒くなり、一日の寒暖差が激しくなり、体調を崩しやすくなります。市史編集はチームです。皆さんの代わりは誰もおりません。かけがえのないお一人お一人です。どうぞご自愛ください。(編集後記)